

健康おまかせ隊

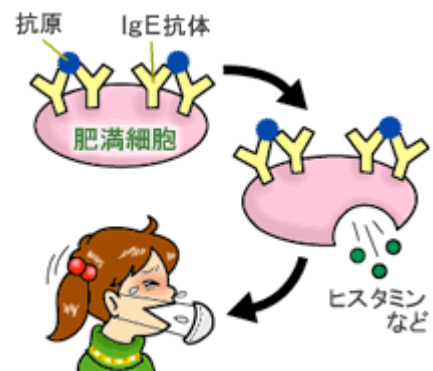
花粉症のおはなし

● アレルギーとは

ヒトの体には、外から入ってきた外敵をやっつけるという免疫反応があります。その外敵が細菌、ウイルスなどの場合はカラダにとって非常に有用な反応ですが、日常の身近なものに対して過剰に反応する場合にはやっかない「アレルギー」ということになります。それが、花粉症ダニアレルギー・食物アレルギーなどです。

その外敵のことを抗原と呼び、抗原が一度体内に入ると白血球の一部が抗体を作りだします。そして再び抗原が体内に入るとその抗体が肥満細胞にアレルギーの原因物質となるヒスタミンなどを放出させるのです。

ヒスタミンなどのアレルギー原因物質が鼻の粘膜に作用するとアレルギー性鼻炎、目に作用するとアレルギー性結膜炎、気管支の場合は喘息、皮膚の場合にはアレルギー性皮膚炎が起こることになります。



● いつから症状がでる？

同じ花粉症の人でも、花粉飛散開始の早い時期から症状が出る人もいれば、大量飛散の日だけ発症する人もいます。これは一説によると、人それぞれに花粉症が発症してしまう花粉の許容量があるためだと言われています。

許容量を「バケツ」、浴びる花粉を「水」に例えると、右絵のように花粉を浴びることによりバケツに徐々に水が注がれていき、ある量を超えバケツから水が溢れ出すと症状が一気に出てくる、すなわち、人それぞれこのバケツの大きさが違うのではないかという説です。

花粉症の初期療法・・・抗アレルギー剤の服用を検討

● 毎年花粉症に悩む人は早めに病院へ

実はこの時期に花粉症の治療にかんする重要な準備があります。それは、花粉症に対して予防的な働きを持つ抗アレルギー剤の服用を検討すべき時期だからです。毎年花粉症に悩まされる人は、まず病院を受診しお医者さんに相談してみましょう。



ここでは受診する際の注意点と抗アレルギー剤に関する情報をまとめておきますので参考にしてください。

● 毎年こんな症状の人は早めの受診を

花粉症の症状がひどく仕事や勉強にも差し支えるような人。
症状が出てから病院で薬をもらうのだが、どうも効き目がよくない人。

● 抗アレルギー剤とは？

肥満細胞からヒスタミンなどアレルギー症状を起こす物質が放出させるのを抑える作用をもちます。この種の薬には、放出されてしまったヒスタミンに対して抗ヒスタミン作用のあるものとないものがあります。

花粉が飛び散る2週間前程度から予防的に飲み始め、飛散時期が終わるまで飲み続けるのが効果的とされています。最近では眠気のほとんどない薬剤も登場し、内服薬のほか、点鼻薬、点眼薬にも幅広く使われています。

